



保育教諭になって 5 年。この 5 年間でここで振り返ってみようと思います。

私は、5 年前に短期大学を卒業し瀬戸こども園に就職しました。大学生活は想像していた生活とは真逆な生活となり大学 2 年生の頃、新型コロナウイルスが流行し始めました。学校に行く事も出来ず、授業も出来ない日々。様々な実習も通常のように行えず不安だらけな日々を過ごした事を今でも覚えています。子どもたちと関わる経験も少なかった大学時代でした。

保育教諭 1 年目。私は 1.0 歳児を担当しました。当初、右も左も分からない私に優しく指導してくださった先輩方。学生時代に子どもたちとしっかりと向き合っている経験が少なかった事もあり、うまく関わる事が出来るか不安でしたが、先輩方が楽しそうに子どもたちと関わっている姿がとても印象的で、私も自分から積極的に声をかける事を大切にしてきました。また、色々な子の元へ自ら近寄り、「〇〇しているね」「これは〇〇だよ」などたくさん声をかけ、「子どもたちと関わる」事に意識を向け過ぎてきました。1 年目は離乳食やミルクをあげるなど初めての経験が多く不安も多々ありましたが、一人ひとりの成長を近くで見守る事が出来た事に誇りを感じ、自分にとって初めて子どもたちと一緒に過ごした 1 年間で、とても充実した思い出となりました。

保育教諭 2 年目。0 歳児を主に受け持ちました。1 年目の経験を活かし、2 年目も子どもたちに積極的に声をかけ関わる事を大切に過ごしました。日々出来る事が増える子どもたちと過ごす中で毎日がとても新鮮で、「昨日歩けなかった子が今日歩けるようになる」等、目に見えて成長していく姿を見守る事が出来た大きな 1 年でした。そうした日々の中で私が大切にしてきた事がもう一つあります。それは環境設定です。日々様々な事が出来るようになる子どもたちに合わせ、様々な遊びの環境設定を大切にする事を意識して過ごしました。「子どもたちが一つひとつの遊びを思い切り楽しむ事が出来るように」「まだ遊びたい！」という気持ちになれたら良いなと思い大切にしてきた部分です。

保育教諭 3 年目。1 歳児を受け持ちました。昨年度からの持ち上がりという事もあり、より近くで子どもたちの成長の姿を見る事が出来た 1 年でした。うまく言葉で話す事が出来なかった子・苦手な野菜を食べられなかった子など姿は様々。そんな子どもたちも 1 年を終える頃には、「みやもとせんせい！」と名前を呼んでくれるようになったり、苦手だった野菜も自ら食べられるようになるなど、成長した姿がたくさんありました。持ち上がりで担任させて頂いた事で、より成長を実感しやすかった 1 年でした。

保育教諭 4 年目。4 年目も 1 歳児を受け持ちました。昨年と同じ 1 歳児クラス。子どもたちの“やってみたい！・やってみようとする意欲”を大切に出来る事を意識して過ごしました。身の回りの事や様々な遊びを自ら、“やってみたい！”“やってみよう”とする気持ちから様々な事に気付いたり発見に繋がります。衣服の着脱では、「自分で」やりたい気持ちも芽生えてきます。そんな中、「出来るかな？」「上手だよ」と大人が傍で見守る中で実際に「出来た！」事が自信に繋がり、「また自分でやりたい！」という意欲に繋がってきます。子どもたちが嬉しそうに「出来た！」を知らせてくれる表情はとても可愛く、私も嬉しい気持ちになります！子どもたちの意欲を大切にするという事は、現在も大切にしている部分です。

保育教諭 5 年目。初めての 2 歳児を受け持っています。2 歳児クラスでは、身の回りの事を自分で出来るようになったり、やりとりが出来るようになる事で友だちとの関わりも増えてくる年齢です。関わりが増える中で、うまくやりとり出来ずトラブルになる事も多くあります。トラブル仲介の際には、双方の気持ちをしっかりと聞き入れ、受け止める事を大切にしています。「どうしたかったの？」「〇〇したかったね」など言葉にしてしっかりと受け止め、仲立ち出来るようにしています。また、思いを自分なりの言葉で伝えられるようになった際には、すぐに仲介するのではなく「自分で言えるかな？」と促し、子どもたち同士で思いを伝え合えるように寄り添っています。持ち上がりで受け持つ中で、昨年の姿と比べ子どもたちの成長した姿をたくさん見る事が出来たこの 1 年。様々な成長を見守る事ができ、とても嬉しく思います。

振り返ってみると、様々な思い出があります！この 5 年の中で子どもたちの成長を近くで見守る事ができ、また子どもたちから多くの事を教わる事も出来ました。日々の教育・保育の中で子どもたちの気持ちに寄り添い、一人ひとりの成長に合わせた関わりを大切にしながら、これからも過ごしていきたいと思っています。